



11月3日(祝)に、「第5回聖灯祭「絆〜heart to heart」」を開催しました。本学ならではの催しである「健康祭」では、各学部が、日頃の学修の成果を生かした企画を実施しました。また、サークルが中心となり様々な模擬店を出店したり、中庭では音楽ライブが催されたりするなど、来場者・主催者ともに楽しいひとときを過ごしました。



INDEX	PAGE
大学生の心とからだの健康	1
先輩からのメッセージ	3
聖書のことば	4
新任教員の紹介	4
私の教育研究	5
研究助成	6
クリストファーニュース	7
お知らせ	9



聖灯祭実行委員長
鈴木啓介(リハビリテーション学部2年次生)
太田雅巳(社会福祉学部2年次生)

第5回聖灯祭は近年にない盛り上がりを見せ、大成功に終わりました。実行委員を始め、健康祭模擬店及び各サークル並びに聖灯祭を盛り上げてくれた方々、そして聖灯祭に足を運んでくださった方々の、全員の心が大きな「絆」で結ばれ、一つになれたと思います。全員で協力し、全員で盛り上げた今回の聖灯祭は、参加した人の心にとっても残るのではないでしょう。そして今回のテーマ「絆〜heart to heart〜」は心の合言葉へと生まれ変わった気がします。



手話っち



茶道部



ハンドベル部



室内管弦楽部



ブラスバンド部



健康祭(看護学部)



健康祭(理学療法専攻)



模擬店

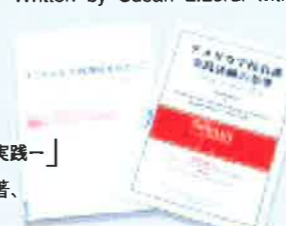
看護学部 地域看護学 助教授 中丸 弘子

「アメリカ学校看護実践活動の基準」

中丸弘子・グリーンバーグ治子 監修・訳、2003.4、西日本法規出版発行、星雲社発売
"Standards of Professional School Nursing Practice Application in the Field" Written by Susan L.Lordi with Beverly Bradley

「すこやかな学校環境をめざしてーアメリカ・スクールナースの実践ー」

中丸弘子・グリーンバーグ治子 著、2006.9、ふくろう出版



著書紹介
私がアメリカのスクールナースに
関心をもったのは、2001年
3月甥の嫁・ウィローの母校、カリ
フォルニア州アプトス高校の保健室をたずねたこ
とでした。そこで、バート・クリスティ先生がみせて
くださったアメリカ・スクールナース実践の基準書
(スーザン・ローディ著・アメリカ学校看護の実践
活動の基準)に出会ったことに始まります。そし
て2004年9月、アメリカの小・中・高等学校を
訪問し、保健室でスクールナースから直接お話し
を聞きその内容の一部を書いたものが「すこやか
な学校環境をめざしてーアメリカ・スクールナース
の実践ー」の本です。学校訪問では、お互い同じ
仕事をしているということでは話も弾み分ち合え
る関係になり、日本の養護教諭もアメリカのスク
ールナースも目指していることは、子どもたち
の幸せと健康という子どもの生活の質をテーマに
お互いが共感し学びあう時間にしていました。基
準書は同じ仲間と自らの仕事の質を点検するた
めに活用していました。お読みいただいで何かを
感じて考えていただくものがあれば幸いです。

読者アンケートのお願い

裏面の質問にご記入いただき、
ポストに投函してください。

POST CARD

433-8790

静岡県浜松市三方原町3453

聖隷クリストファー大学
総務部 行



料金取人私
浜松北局
570
差出有効期限
平成20年10月31日まで
切手不要

名前	住所	電話	E-mail	区分

〒

□保護者 □その他



保健・医療・福祉の探究

聖隷クリストファー大学

発行所 聖隷クリストファー大学 看護学部/看護学実践学専攻/リハビリテーション学専攻/社会福祉学部 大学院 看護学研究科/リハビリテーション学専攻/社会福祉学研究科
〒433-8558 静岡県浜松市三方原町3453 TEL.053-439-1400 FAX.053-439-1406 <http://www.seirei.ac.jp>

大学生の心とからだの健康

～充実した学生生活を送るために～

入学してから卒業するまで、学生の皆さんが心身ともに健康で過ごせるよう、「健康管理センター」と「学生相談室」を設置しています。

健康管理センター

よりよい健康管理センターへ

大学保健管理の目的は「学生が健康に学生生活を送り、将来も健康であるために、自分の健康を自分で管理できるための能力を高め、学生が健康を保持・増進するために必要な援助を行うこと」(遠藤巴子、片平敬子、佐藤睦子ほか・青年期の健康と看護、日本看護協会出版会、1994)といわれています。本学の健康管理センターでも学生の皆さんが健康で就学を継続できることを第一に考えてサポートしています。どうぞお気軽にご利用ください。

主な業務

- 健康診断
必ず受診して健康状態をチェックしましょう。◎年1回(4月)学校保健法に基づき「定期健康診断」を全学生対象に実施しています。また、定期健康診



健康管理センター

断では、結核予防対策として入学年度だけでなく、毎年度、胸部X線検査を実施していますので全員必ず受診しましょう。
◎健康診断は、健康管理センター窓口で本人確認をした上で配付し、その場で、質問・相談に応じています。
健診の結果、再検査・精密検査・治療が必要となった場合は、医療機関を紹介したり、個別の保健指導を行っています。

■応急処置

市販薬はありますが、治療はできません。◎急病や、ケガの時、保健師が応急手当を行い、必要に応じて医療機関を紹介いたします。

■健康相談

体のこと、病気のこと、気になる事があつたら早めに相談しましょう。

◎保健師による健康相談は随時受け付けています。

◎学校医による健康相談は申し込み制です。健康管理センターにお問い合わせください。

■健康教育

主にオリエンテーションやガイダンスの中で行っています。

健康管理センターのご案内
●開室時間 9:00～17:00
(土・日・祝日・その他大学の休日は閉室)
TEL 053-436-3016
FAX 053-437-6782
Eメール health-center@admin.seirei.ac.jp
健康管理センターでは、電話などによる本人確認のできない問い合わせについては、お答えできませんのでご了承下さい。
●職員紹介
健康管理センター長 中山 孝江(保健師)
野中 茂子(保健師)

カウンセリングの実践

カウンセリング、学生相談に對してどの様なイメージをお持ちでしょうか?何人かの学生に聞いたところ、「きっかけは健康管理センターの先生に勧められて。その時は私ってヤバイのかも。みんなと心の状態が違うのかも...と思った。こは話したいことを話せるし、友達だとかんなこと話していいのかな?重たいかな?て...」と言う学生や「悩んでいること...:そういう事も言えるから。否定されないから気楽。」「こうしたら良い、こうすれば上手く行くよ。」「アドバイザーくれる所だと思っていたけど、実際は自分から話して、それでどうしたいか見えてくるという感じ。」「この様な答えが返ってきました。
私たちが向き合ひ話すことにより、心や頭の整理が少し出来ているように思います。カウンセリングは学生の

青年期の課題

青年期後期にあたる大学時代は、子どもから大人になる時期であり、自分について知る時期です。精神的にも物理的にも親から離れ、自分を振り返る時間が生じてきて、「自分が自分であること」という当たり前でありながらとても難しい感覚を得るための内的な仕事が必要となる時期なのです。

さらに、医療・福祉系大学である本学の特徴として全学生に必要とされるのが「人間理解」の力です。自分も他者も理解しようとする姿勢です。そのため講義の中で自分自身について問われるような場面も多く経験することと思われます。

このような時期だからこそ、自己理解という課題に真面目に取り組み、問題を解決しようとするほど、迷ったり、悩んだり、苦しくなったりするかもしれません。学生相談室は、決して病的な問題だけを取り扱っているところではなく、自分について一緒に考えていく場になっています。相談室を一度お訪ね下さい。

学生相談室のご案内

- 開室時間
月曜日から金曜日 10:00～17:00
担当者 櫻井文子(相談員)
- カウンセリング実施日
月曜日10:00～17:00 太田 泉(臨床心理士)
水曜日10:00～17:00 竹内 恵美子(臨床心理士)
- カウンセリング予約方法
まずは学生相談室相談員まで電話やメールでの予約もできます。
TEL 053-436-3016
Eメール soudanrm@admin.seirei.ac.jp

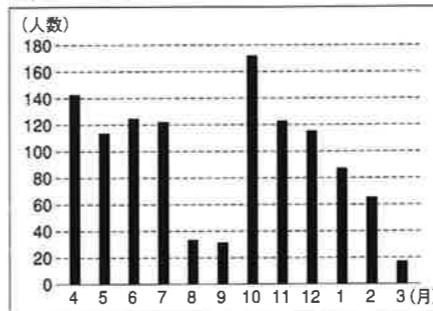
個人情報保護に関するお知らせ

健康管理センターでは、学生及び教職員等の個人情報を下記の目的に利用しています。また、取り扱う個人情報の漏洩・滅失またはき損の防止、その他の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じます。

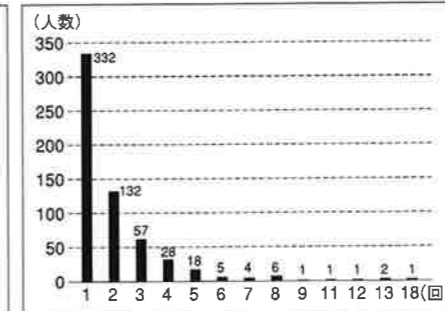
- 1.利用目的
学生及び教職員の救急対応、健康診断、健康相談、保健指導等の健康管理に関する業務に利用します。
- 2.取り扱う情報
(1)学校保健法に基づく健康診断結果および労働安全基準法に基づく健康診断結果
(2)上記健康診断の有所見者の再検査・精密検査等の受診の有無
(3)ツベルクリン反応検査結果
(4)小児感染症抗体価検査結果
(5)検便(腸内細菌・寄生虫卵検査)結果
(6)健康管理票(既往・現病歴を含む)
- 3.情報の利用について
(1)収集した個人情報は、利用目的の範囲内で利用します。
(2)現在本学に在学している学生について、実習受入れ施設からの検査(検便)結果の問合せに対し回答します。
(3)健康管理センターでは、外部の検査機関に業務委託検査を実施しています。その際は、機密保持事項を含む契約を締結し、委託先に対し情報に関する厳重管理を求め、目的以外の利用を行わせないようにします。
- 4.情報の管理方法
健康管理センターは、取り扱う個人情報の漏洩・滅失またはき損の防止その他の個人情報安全管理のために必要かつ適切な措置を講じます。
個人情報の取り扱いについて、ご不明な点・ご質問等がありましたら、健康管理センターまでお問合せください。

健康管理センターDATA

■学生の月別利用状況/グラフ1



■学生一人当たりの年間利用回数/グラフ2



■来室した学生の主訴に対する対応/表1

主訴	対 応							計
	内服	処置	休憩室利用	健康相談(身体)	健康相談(精神)	医療機関紹介	受診付添	
内科系	180	1	134	122	1	27	2	479
外科系	2	131	2	17	2	13	1	171
婦人科系	38		15	28		6	1	92
皮膚科系		18		20	1	14	1	58
泌尿科系				2		2	1	5
耳鼻科系	3	2	7	6		7		26
眼科系		2		9		6		18
歯科・口腔系	1	1		3		6		11
その他		3	23	27	92	10	1	202
計	224	158	181	234	96	91	7	1062

■学生の月別利用回数は10月が1番多く、続いて4月でした。これはいずれも春セメ、秋セメの開始間もないころの月です。春セメはその後徐々に低下するもののほぼ横這いですが、秋セメは月を追うごとに利用者の低下が見られます。(グラフ1)

■1年間に588名の学生の利用がありました。これは全学生の45.7%です。利用回数の多い学生はメンタル面での相談が主であることが多いです。(グラフ2)
■利用者の来室時の主訴で一番多いのは内科系で延べ479人(45.1%)でした。内科系の中でも特に多かったのは感冒172人、胃痛・腹痛・下痢123人、頭痛85人でした。また、その対応方法としては市販薬の内服をした学生が180人(37.5%)で一番多く、次に休憩室の利用134人(28.0%)、身体面の健康相談122人(25.5%)でこの3点で91%でした。

2番目に多かった主訴は、外科系で171人(16.1%)でした。外科系は創傷、打撲・捻挫が多く創部の消毒や局所のアイズ及び湿布薬による処置を行いました。3番目に多かった主訴は婦人科系で92人(8.7%)でした。そのうち約60%は生理痛で、鎮痛剤の服用と休憩室を利用しました。身体面の健康相談が一番多いですがほとんどが生理の間隔、出血量についての相談です。20歳前後の学生の生理の場合、ホルモンのバランスに関する問題が考えられ一部医療機関に紹介した例もあります。来室する学生の主訴による対応は様々ですが、すべての主訴に行った対応は身体面の健康相談と医療機関紹介でした。(表1)



先輩からのメッセージ

社会福祉学部は昨年度、初めて多くの卒業生を送り出しました。それぞれの道でがんばっている3人の先輩たちに伺いました。

本学の学部を卒業し、学びを更に深めるために、 本学大学院で学んでいる4人の先輩たちに伺いました。

今年4月、大学院社会福祉学研究科3期生として新たな学生生活がスタートしました。学部では社会福祉・精神保健福祉の2つの領域を学び、以前より関心のあった高齢者の中でも特に、近年増加傾向にある精神疾患・症状を併せもつ認知症高齢者に対しての学びを深めたく、大学院への進学を決めました。現在、高齢者施設で介護職として働きながら学生生活を送っています。忙しい毎日ですが、理論と実践を結びつけながら学べることは、とても貴重な経験であり、この環境に感謝しております。学部生の皆さんには学部で学ぶ2つの事柄を大切に、現場に出ていってほしいと思います。そして、機会があれば学びを深め、現場に生かすために大学院で学ぶことをおすすめします。

聖隷クリストファー大学
大学院 社会福祉学研究科 1年次生
佐野 仁美

株式会社ヤマシタコーポレーション
ホームヘルスケア事業部 第3ブロック 浜松営業所勤務

太田 恭寛
社会福祉学部 社会福祉専攻
2005年度卒業生

私たちが聖隷に入学した当時、全ての環境が整っていた訳ではありませんでした。しかし、私たちの大学生活の面白さはそこにあつたのではないのでしょうか。1学年100人という小さな学部であり、先輩のいない1期生であつたため、学生同士や先生方との結びつきは大変強いものでした。ただ4年間を過ごしたというよりも、同級生や先生方と共に大学生活を創ってきたと表現する方が適切でしょう。そう言えるほど全てが印象に残っている4年間でした。

大学生活をより良く変えていくためには、私たちのように学生が大学に働きかける事が必要です。在学生の皆さんが充実した大学生活を過ごせるよう、私たち卒業生も協力していきたいと思っています。

聖隷クリストファー大学
大学院 看護学研究科 1年次生

大木 純子

私は、臨床での経験を経たあと大学へ進学し、卒業後さらに臨床での経験を積んでいく中で、がん看護に関する専門的な知識や技術を学びたいと思い研究科への進学を決めました。臨床を離れ学ぶことは、広い視点で物事を考え、論理的に考えていく力を身につける上で大切なことです。しかし自分ひとりの力で学ぶことには限界があり、研究科の仲間や諸先生など多くの方々の支援・協力が支えになっていきます。皆様にとっても一緒に学ぶ友との関係はとても大切であり、大学生活はとても貴重だと思います。自分の意見もちながら相手の意見を聴くことや、相手の思いをわかってもらう姿勢を大切に、何事にも積極的に取り組んでほしいと思います。

聖隷クリストファー大学
大学院 看護学研究科 1年次生

早川 ゆかり

私は本学卒業後、聖隷三方原病院の救命救急センターで看護師として勤務した後、保健師を経て、現在は本学大学院の看護学研究科で学んでいます。その間プライベートでは結婚 出産を経て現在は2歳の女の子のママ、お腹には第二子妊娠中のママさん大学院生です。今から9年前、大学を卒業する際には将来大学院に進学するとは夢にも思っていませんでした。しかし、臨床で経験を積むうちにもう一度勉強したいという気持ちが高まり、進学を決意しました。大学院に入った今、年齢も背景も様々な院生仲間や先生方の刺激を受けながら日々学ばせていただいています。私は保健・医療職は学校の勉強だけでなく様々な経験がいきってくる職業だと思っています。きつと人生に無駄な出来事はありません。多めに学んで遊んで悩んで一度しかない学生生活を満喫して下さい。

社会福祉法人
天竜厚生会勤務

秋葉 聡

社会福祉学部 社会福祉専攻
2005年度卒業生

大学生活で大変だったことはたくさんありましたが、中でも4年生になってからの就職活動、卒論、国家試験の勉強がいちばん大変でした。就職活動では1次試験が通らずに悔しい思いをすることも多々ありました。また、卒論では期日に追われ、国家試験の準備では12月頃から講義がなくても毎日学校に行き、朝から夜8時頃まで勉強しました。このような苦しい時を乗り越えられたのは、学部のみならず先生方また就職センターの職員の方達が自分を支えてくれたからだと思います。

在学生の皆さんに伝えたいことは大学生活には楽しいことも苦しいこともあり、特に4年生になればどの学部も国家試験と卒論そして就職活動に追われますが、仲間が助け合い、また教職員の方々の助けを借りながら、最後には自分の力で乗り越えることができるように最後まであきらめないで頑張ってください。

榎原総合病院勤務(精神保健福祉士)

福永 宣彦

社会福祉学部 社会福祉専攻
2005年度卒業生

時が過ぎるのは早いもので、大学を卒業して半年以上が過ぎました。今では、大学時代のことが懐かしく思い出されます。大学生活の思い出としては、苦悩した精神保健福祉士の実習が、多くの感情を伴って心に残っています。この実習を通して、尊敬できる志の熱い先輩のソーシャルワーカーの方々の出会い、多くの人との出会い、それが現在の仕事に就こうと決意した原点となっています。ソーシャルワーカーを目指す先輩のみなさんには、実習がこれから先あるかと思いますが、実習生としての一つひとつの体験を忘れずに、仕事に就いてからも大切にしていってほしいと思います。

聖隷クリストファー大学
大学院 看護学研究科 1年次生

炭谷 正太郎

私はクリストファー大学を卒業し、看護師として精神科と救命救急病棟を経験しました。実は、私は看護大学を希望した動機があまりで、看護大学にいながら看護に興味の湧いてない時期もありました。苦い経験も多い大学生活でしたが、看護は人がより良く生きるためのあらゆることを考え実践する職業だと学び、魅力的な世界だと感じるようになりました。大学時代の仲間は今でもかけがえのない友人です。お世話になった先生方には今も勉強をさせてもらっています。皆さんにとっても、かけがえのない学生生活になると思います。体調に気をつけて、お互い楽しく学んでいきましょう！

シリーズ/聖書のことば 【長谷川保と聖書】

聖書は全て神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。
(第二テモテ三・一六)



聖書を読み始めた十代後半から二十代にかけて私は聖書を「学ぶ」ように読んでいました。数学の問題が解けない時や難しい英語の文章が訳せない時に、いらした思いになったように「学ぶ」ように聖書を読むと、喜びが感じられませんでした。分からない文章や言葉があまりにもたくさんあつたからです。

ある出来事がきっかけで、そんな私に転機が訪れました。心が渇き、神の声を「聞く」ように読み始めました。文字を読んでいるのですが、神が語りかけてくださるようになってきました。しばらく心が熱くなりました。それでも聖書の中に書き込みをしていただけで、俄然それが多くなりました。何冊も聖書を持っているのですが、やがてこの書き込みのしてある聖書が手放せなくなってきました。書き込みは年々加わってゆきました。

聖隷クリストファー大学の歴史資料館を初めて訪ねたときに、真正面のケースに長谷川保先生ご夫妻の書き込みのしてある聖書を見ました。私よりはるかに多く、ぎっしりと書き込まれていました。私はうれしくなり、聖書の導きの下に書かれた聖書は、必ずやあなたの心にも神の声となって聞こえてくるでしょう。

聖隷学園宗教主任/鈴木崇巨

新任教員紹介 10月1日付け就任



森本 悦子
看護学部
成人看護学 助教授



今井 淳
社会福祉学部
介護福祉専攻 助手

◆出身校/桜美林大学大学院看護学研究科修士課程老年学専攻修了
◆前任校/織田福祉専門学校
◆主な研究テーマ/介護者のストレスについて(老年学 Gerontology)
「大学生活を楽しんでいますか?若さはパワーです。大学でお会いしたら気軽に声をかけてください。皆さんの交流を楽しみにしています。どうぞよろしくお願いたします。」

◆出身校/千葉大学大学院看護学研究科修士課程修了
◆前任校/山梨大学大学院医学工学総合研究部
◆主な研究テーマ/がん看護学、外来通院で緩和的治療を継続しているがん患者・家族の看護について
「こんにちは。私は旅が好きで、国内外あちらこちらに出かけてきました。ぜひ浜松や東海地方のおすそめを教えてください。よろしくお願いたします。」

研究助成

2006年度科学研究費補助金 採択状況

文部科学省・日本学術振興会が交付を行う科学研究費補助金に採択された研究課題を紹介します。

学部	職位	研究代表者	区分	研究種目	研究課題
看護学部	教授	福田健治	新規	萌芽研究	ネットワークコンピュータを介した看護自己学修の促進と支援プログラムの開発
看護学部	助教授	酒井昌子	新規	基盤研究C	訪問看護ステーションにおけるナレッジ・リーダー育成プログラムの開発と実践的研究
看護学部	助教授	森本悦子	新規	若手研究B	外来通院で緩和的治療を継続するがん患者への看護に関する研究
看護学部	講師	坂田五月	継続	若手研究B	温電法の器具の違いが生体反応と温度感覚に及ぼす影響
看護学部	講師	富安眞理	継続	萌芽研究	パラダイム転換期における訪問看護師の看護実践に対する自己効力尺度の開発
看護短期大学部	講師	宮本雅子	新規	若手研究(スタートアップ)	自由な分娩体位の安全性に関する研究—施設内の導入に向けて—

※年度途中の転入を含みます。

本学では、本学の教育研究水準の向上に貢献するもので個人研究費では行おうことのできない研究を専任教員が一人若しくは共同(学外研究者含む)で行う研究計画に対して共同研究費を配分しています。2006年度は、学内2学部以上の複数研究者または外部の研究者と共同で行う保健・医療・福祉に関わる研究を対象にした奨励研究枠、学長が定めたテーマに関して具体的研究課題を公募する学長課題研究枠、同一学部の研究者による研究を対象にした学部別共同研究枠について公募を行い、下記の研究課題を採択しました。また、昨年度の研究の成果については、5月22日～26日にポスターセッション形式の報告会を開催しました。

2006年度共同研究一覧

種別	所属	職位	研究代表者	区分	研究課題
奨励研究枠	社福	助手	福岡隆康	新規	社会福祉従事者の職務特性に関する研究
	リハ	教授	顧寿智	新規	腎臓移植における抗原特異的調節性T細胞に関する慢性拒絶反応の抑制
	リハ	助教授	横山茂樹	新規	股関節機能が下肢加重時における膝関節回旋運動に与える影響
	リハ	助教授	大町かおり	新規	各種速度条件における歩行の運動学的および運動力学的分析
	リハ	助教授	新宮尚人	新規	精神障害者の地域生活ニーズと作業遂行能力に関する予備的研究
	リハ	講師	西田裕介	新規	ブロープ反応時間をを用いた運動学習効果の経時的変化—歩行中の上肢末経験動作獲得の過程について—
	リハ	講師	田丸あき子	新規	介護サービスのあり方を考える—カナダの障害者自己管理型介護サービスシステム"DirectFunding Self Managed Care"を通して—
	リハ	助手	根地鶴誠	新規	膝前十字靭帯損傷患者における膝伸展運動時の下腿への近位抵抗が大腿四頭筋の筋収縮パターンに及ぼす影響
	リハ	助手	池田泰子	新規	言語聴覚士と学校との連携についての実態調査
	リハ	助手	宇野木昌子	新規	注意訓練が失語症者の語想起に与える効果について
学長課題枠	リハ	助手	窪木健	新規	施設入居高齢者の活動参加についての実際—経費老人ホーム(ケアハウス)での介護予防活動をととして—
学部別共同研究枠	看護	教授	安孫子誠也	新規	石原 純の相対性理論研究
	看護	助教授	小宮山博美	新規	在宅重症心身障害児のきょうだいへのサポートに関する研究
	看護	助教授	鈴木知代	継続	日本と中国における健康観・健康評価・家族機能の比較
	看護	助教授	鈴木みちえ	新規	「大学生の健康習慣および自己管理スキルに関する縦断的研究」—学年進捗による変化と関連要因—
	看護	助教授	長谷川勝俊	新規	ダイビングプールの有効利用・活用に関する研究
	看護	講師	三輪木君子	新規	清拭後の水分のふき取り、覆いによる保温の有無が生体に及ぼす影響
	看護	講師	米倉摩弥	継続	初学者と熟練者におけるボディメカニクスの相違についての量的検討
	看護	講師	米倉摩弥	新規	食事道具の変更が患者に与える影響について—生体反応と疲労の自覚症状から—
	看護	講師	坂田五月	新規	感染管理教育システムの構築—院内ネットワークコンピュータを介しての自己学修支援プログラムの開発—
	看護	講師	坂田五月	新規	安全な静脈注射の実践に必要な看護部研修プログラムの検討—新人看護師研修に焦点を当てて—
	看護	講師	佐藤道子	新規	看護教育における創造性育成に関する研究—創造性を育成するための教育方法—
	看護	講師	小平朋江	新規	看護学生の主観的体験を踏まえた精神科保健室に関する教育方針の検討—テキストマニングによる非構造型データの分析から—
	看護	講師	入江晶子	新規	コホート検討会形式による結核患者への服薬支援の現状分析
	看護	助手	堤美恵	新規	NICUに入院となった早産児と母親の母乳育児に関する研究—搾乳を続ける母親が感じる困難な原因—
	短大	助教授	國分真佐代	新規	「その人らしいお産」をめざして行う主体的な出産準備の効果
	短大	講師	宮本雅子	継続	分娩第二期における人工破膜の効果性の検証
	社福	教授	小松啓	新規	高齢者福祉における「介護予防」の意義に関する研究—その2—
	社福	教授	小松啓	新規	認知症高齢者生活支援の構造に関する研究—宅老所「よりあい」における参与観察を中心に—
	社福	助教授	店村眞知子	継続	音楽療法「治療のためのコンサート」の精神生理学的評価
	社福	講師	大場義貴	新規	精神障害に関する偏見克服に関する研究(第一報)
	社福	講師	根本久仁子	新規	国立ハンセン病療養所ソーシャルワーカーの役割機能に関する考察
	リハ	教授	大城昌平	継続	新生児・乳児の自発運動の質的解析
	リハ	教授	宮前珠子	新規	作業科学研究の国内外連携を図るための予備的研究
	リハ	教授	立石恒雄	継続	高齢者施設入所者を対象とした補聴器適合候補者選別のための質問紙の開発
	リハ	助教授	木村朗	新規	産業保健分野における「生産性へ寄与する身体活動」評価の介入的研究
	リハ	助教授	大町かおり	新規	食事動作における公判定手法の開発
	リハ	助教授	山崎せつ子	継続	健康乳幼児が与えられた玩具で遊ぶときに見られる繰り返し行為の特性
	リハ	助教授	山崎せつ子	継続	義務教育終了後間もない障害児をもつ親が語る進路選択に対する思い
リハ	助手	水池千尋	新規	非聞き手の書字動作に対する視覚情報を利用した学習効果 —非線形解析による分析—	
リハ	助手	重森健太	新規	高齢者の脊柱後彎と頸部角度の関係が後方バランスに与える影響	
リハ	助手	藤田さより	新規	園芸療法のリハビリテーション医学的適応に関する基礎的調査研究—作業法学的有用性と課題—	

※所属の「看護」は看護学部、「短大」は看護短期大学部、「社福」は社会福祉学部、「リハ」はリハビリテーション学部

上手に頼り、上手に頼られる…サポートをサポートする看護



荒川 靖子
看護学部 教授
■最終学歴:千葉大学大学院看護学
研究科 修士課程(看護学修士)
■所属学会:日本看護科学学会、緩和
医療学会、ホスピスケア研究会ほか
■研究テーマ:危機状態に直面してい
る家族に対する看護、がん患者の症
状コントロールに対する看護

しばらく前に発見した、私がフレッシュなナースであった頃の日記によると自分で思っていたよりも早くから私は家族看護に関心があつたようです。
大学を卒業して臨床に出た初めの頃には、専門職としての看護に対する期待と、看護師としての自分が患者さんのケアをしようと立つんだといった気概? 負い?を抱いていたように思います。しかし、日々、患者さんと向かい合っているうちに、心身ともにしんどい状態にある患者さんに本当のサポートの手をさしのべられるのは家族なのかもしれないと思いはじめました。その頃、新聞で「入院している夫の世話をしたいけれど、病院の看護師さんからは私たちがお世話をしますので、安心してお帰りください」といわれます。夫を「人質」に取ら

れている以上、その言葉に従うしかなりません」という妻の投書を読みました。「看護」の立ち位置はどこにあれば良いのかなと考え始めました。
進学した大学院では、「家族看護」をテーマに選びました。患者さんもちろん家族の一員です。患者も含めた家族集団をひとまとまりとして、その看護の方法について考えました。
最近では、家族の形や働きが変化してきているといわれています。家族員の数も少なくなってきたり、家族だけでは対処しきれず社会的な支援が必要とされる問題も増えてきています。むかし、むかし、大昔には、養育も教育も看病も家族の中にあつた。今では、保育園、学校、病院がそういった役割を分担しています。これからの家族には、どのような働きが残り、社会が何を引き受けていくのか看護の立場からも注目していかなければならぬことだと思っています。
前任地の神戸では、震災後に地域でのつながりを失った独居の人たちの孤独死が大きな問題になりました。臨床でも、家族がいらない、あるいは、家族との縁がきれてしまっている患者さんたちに接する機会が増えているように思います。家族が利用できない患者さんへの「家族看護」…これもこれからの大きなテーマだと

召命あるいはcalling



大町 かおり
リハビリテーション学部 理学療法学専攻 助教授
■最終学歴:東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻、運動障害学講座 肢体不自由学分野博士課程(障害科学博士)
■所属学会:日本理学療法士協会、日本理学療法科学学会、日本公衆衛生学会、日本運動器リハビリテーション学会、臨床歩行分析研究会
■研究テーマ:ヒトの日常生活動作の分析

私が研究している分野は「運動学」であり、ヒトの身体の動きを、時・空間および力学的に数字で表すというものです。
研究をすることになったきっかけは、宿題でした。卒業生は必ず入会する、名大理学療法研究会で研究発表をすることが、新卒者には義務として課せられていたからです。
研究のテーマは、自分で決めるか、教員から与えられるようになっており、私の場合は「片麻痺患者のPCR」というテーマを与え

られました。
研究会では、教員や先輩方からの熱意と愛情のこもった激しい質疑をいただきます。その場で質問に答えられなければ宿題となり、その後、「ここまではねーなら、まとめて形にしなければねー」といわれ、少しずつ課題が増えていきました。このようなやりとりが2度ほど続き、ひと段落したころ、自分で研究してみたいテーマが見つかり、当時指導を受けていた先生に相談しました。「心理学分野の指導はできない」。私が研究したいと思ったテーマは患者の心理についてでした。それでも障害に対する患者の心理を勉強したいと思った私は、細々と自分なりに研究をした後で、東北大学大学院へ進学することを決めました。きちんと調べ、教授にも大学院生にも会い、ぜひこの教室で学びたいと思い、受験をしました。しかし、進学後の面接で「やっぱり理学療法士なのか」といわれ、運動学班に配属されました。

それから、どっぴりと運動学につかり、下積みから叩き込まれました。よくわからないままに配属されたにもかかわらず、指導を受けた先生方の研究に対する真摯で紳士な姿勢を目の当たりにし、グループで協力して研究を進めた末に、難問を解いた後のような爽快感を味わうと、不思議なもの、だんだんとその分野が面白くなってくるものなのです。あとはもう、進めといわれた方向に走り続けました。
今回、原稿の依頼をいただいて、あらためて運と縁と恩を感じています。
おそらく私は、これまで会った先生や仲間恵まれていたのです。自分の意思で動くことあまり望むように、ことが進まないのに、流れるように環境が用意されている上に、その場の居心地がよい、というの「召命」ということなのかもしれません。
きっと、これまでの自分を省みる機会をいただいたのです。そして、これから自分が教員という役目を担うということをあらためて気づかされたのだと思います。

感じています。
人は、まず、家族の中で、日々の生活の中で、お互いにサポートし、サポートされながら生きてい

くと考えたいのですが、家族の中でさえ上手に頼ったり、上手に頼られたりすることに不器用な人が多くなっているように思います。

家族みんながもっている思いとパワーのスイッチをオンにできるような看護を考えていきたいと思っています。

国際交流編

4月25日(火)に、シンガポール・ナンヤン理工学院(NYP)において、同学院との交流協定を締結し、シンガポールの代表的なヘルスケア専門職養成機関であるNYPとの本格的な交流が始まりました。

本学とNYPは、本学作業療法学専攻教員と同学院教員との学術交流に始まり、さらに幅広い全学的な交流を可能とする交流協定を締結するため、2005年度より準備を進めてきました。



協定書に調印し握手をかわすリンNYP学院長兼CEOと深浦学長



着てはNYPの学生は歓迎会や民族衣装の披露をしました。

シンガポール・ナンヤン理工学院一行が来学しました。

10月4日(水)から6日(金)まで、シンガポール・ナンヤン理工学院(NYP)研修生と引率の先生方が研修のため来学しました。

今回来学したのは、看護学科生11名、理学療法学科生4名、作業療法学科生5名、および引率者5名の計25名です。研修では、本学看護学部や理学療法学専攻および作業療法学専攻の授業・実技試験の見学、学生との交流、近隣医療施設の見学などを行い、最終日には、本学学生主催によるお別れ会が行われました。

2006年度シンガポール研修を行いました。

9月3日(日)から9日(土)まで、看護学部、リハビリテーション学部の希望者を対象に、シンガポール研修を行いました。

第1回目の研修となった今回は、看護学部8名、リハビリテーション学部理学療法学専攻2名、作業療法学専攻5名、計15名の学生が参加、シンガポールの医療施設の見学や各専門の演習体験、授業見学、学生との交流などを行いました。

就職支援編

本学ではひとりひとりの夢を実現するため、様々な就職支援を行っています。開設3年目を迎えたリハビリテーション学部では就職に向けて就職講演会を開催しました。



お辞儀の仕方

マナー講習会を行いました。

4月8日(土)、社会人になるために必要不可欠な基本的マナーを習得してもらおうと、講習会を行いました。今年度就職活動を行う看護学部・社会福祉学部の4年次生および臨床実習を控えたリハビリテーション学部3年次生を対象に実施。「就職支援プログラム」の一環として就職センターが企画し、例年春と秋に開催しています。

当日は、64名の学生が出席し、立ち居振る舞いの基本やあいさつ、お辞儀の仕方、敬語の使い方など、講師の方から丁寧な指導を受けました。

リハビリテーション学部作業療法学専攻就職講演会を行いました。

6月1日(木)鹿児島大学保健学科作業療法学専攻教授で日本作業療法士協会常務理事である岩瀬義昭先生をお招きし、「求められる作業療法士像―夢の実現に向けて―」をテーマに講演会を行いました。

この講演会は、学生が作業療法士の需給状況や今後の見通し、求められる人材像・資質などについて理解を深めることを通し、将来の夢や目標を見出すきっかけとなるよう実施されたものです。

当日は作業療法学専攻2・3年



真剣なまなざしで話を聞く学生たち

看護学部学内病院説明会を行いました。



大教室での全体説明

6月3日(土)と10日(土)、学内病院説明会が行われました。

これは、本学学生が病院を理解し、就職活動に役立てることを目的に、病院の概要や病院側が求める人材、採用基準などについて、病院の採用担当者の方やそこで働く本学卒業生から直接話を聞く機会として、看護学部3・4年次生を対象に就職センター主催で開催したものです。

6月3日(土)の説明会には、静岡県内および愛知県東部地区の病院をお招きし、10日(土)には、聖隷関連の病院をお招きして実施しました。いずれの会も参加病院の紹介や全体説明の後、病院ごとの個別相談会を実施しました。個別相談会では、学生たちは関心のある病院のブースに赴き、直接採用担当者や卒業生から話を聞きました。

リハビリテーション学部理学療法学専攻就職講演会を行いました。

7月4日(火)に三島社会保険病院リハビリテーションセンター部長で静岡県理学療法士協会会長である石井俊夫先生をお招きし、「将来の理学療法士像を描く」をテーマに講演会を行いました。

石井先生の33年にわたる臨床現場での経験から見た理学療法士の現状と課題、期待される理学療法士像、これから臨床実習に出る学生に向けての心構えなどのお話をいただきました。現状と課題の話の中では、「理学療法士の仕事は以前は医療中心だったが、現在は保健分野

行事編

本学では学生対象の講演会のほかに、地域貢献の一環として地域の方や専門職の方々を対象とした公開講座や専門職向け講座など多彩な講座を開催しています。

看護の日記念行事を行いました。



5月12日(金)、近代看護の創始者フローレンス・ナイチンゲールが生まれた日を記念して看護の日記念行事を行いました。

公開講座「スピリチュアル・ケア、死生学の立場から」を開催しました。

9月2日(土)、講師にお招きしたのは、関西学院大学社会学部社会福祉学科助教授で死生学・スピリチュアリー研究センター長である藤



講師の藤井美和氏

井美和氏。重い病気になった人、死に直面した人、また、心を病んだ人などのように寄り添うかについて、藤井氏自身の患者体験といくつかの事例を通して講演されました。会場には、浜松市内の医療・福祉関係者を中心に413名が参加。参加者は「スピリチュアル・ケアには自分自身の死生観を確立した上で、対象者と向き合うことが重要」という藤井氏の熱いこもった話に耳を傾けていました。また、講演終了後には、講師を囲んでの懇談会を行いました。

専門職向け公開講座「社会福祉の近未来」を開催しました。

7月15日(土)、講師にお招きしたのは、日本の社会福祉政策や福祉経営研究の第一人者である東洋大学教授の古川孝順先生。福祉国家の成立と退潮、社会福祉の改革、社会福祉の抱える新たな課題、専門職制度の革新などをテーマに、今後の日本の社会福祉が進む方向や進むべき道についてお話をいただき、講演後には質疑応答が行われました。

会場には一般の方々、本学教員や在学生など約80名が訪れ、古川先生の話に熱心に耳を傾けていました。



講師の古川孝順先生



講演終了後の懇談会。主に医療・福祉関係者が参加し、実際の現場でのかわり方などについて質疑応答が行われました

学友会から

聖隷クリストファー大学
学友会会長

小山 隆太

社会福祉学部 2年次生



昨年先輩方から学友会の役割や仕事を教えていただきました。その際、学友会の活動が大変保守的であるとの印象を受けました。それは本学の学友会活動が歴史も浅く、その土台づくりに多くの力を割かれてしまったからかもしれません。もちろんそれは重要なことで、先輩方が築いてくれた土台を大事にし、今年度は新しいことに取り組んでいきたいと思ひます。具体的には今まで取り組まなかったこと、例えば喫煙問題などに積極的に取り組んでいくこと、また、従来からの活動を活性化させ、自分たちの学生生活をより充実したものにしていきたいと思ひます。そして、これらの活動を通じて他大学の学生や地域の方々の交流を深めることができたらと思ひます。

自分たちに課せられた役割と責任の重さを感じていますが、全学生の協力体制のもと、できることから実行していきたいと思ひますので、皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

2006年度卒業式・卒業パーティのお知らせ

2007年3月12日(月)に「2006年度学位記授与式・卒業式・修了式」(会場:アクトシティ浜松中ホール)と「卒業パーティ」(会場:グランドホテル浜松)を開催します。卒業年次の保護者の皆様には追ってご案内状をお送りします。



売店 10時20分~13時30分
営業時間 15時~18時30分
食堂 10時20分~15時
営業時間

9月29日、大学校舎内に待望の売店がオープンしました。営業時間、販売商品は学生から寄せられたアンケート結果を参考に検討し、売店名も公募しました。また、売店設置のための設備、備品の購入については、大学後援会から援助をいただきました。「学生の皆さんに利用していただける売店にしたいと思ひます。こんな商品があったらいいな」をお待ちしています。食堂共々宜しくお願いいたします。(日京クリエイト食堂・売店スタッフ同)

売店を設置しました。

2006年3月21日に交通事故で亡くなった社会福祉学部2年次生(当時)の菜名智浩君を偲ぶ会が5月20日(土)に学生有志により本学で開催されました。当日はご両親をお招きし、菜名君の思い出の場所をご案内した後、菜名君の思い出について語り合いました。ご両親からは大学で過ごした2年間が本当の意味での息子の青春だったと思ひますとの言葉があり、学生さん達のために役立ててほしいと寄付金が寄せられました。

菜名君を偲ぶ会



この寄付金は学生の学修に役立つ図書を購入する費用に充てさせていただきます。大学図書館の一角に置いて「菜名智浩記念文庫」と名付けました。

【大学後援会から】

2006年度保護者懇談会を開催しました



リハビリテーション学部 作業療法専攻 懇談会



看護学部 懇談会

大学での様子がよく分かったので、親として大学生の子供にどのよう接していけばよいか分かった。(社会福祉学部2年次生) 国際福祉実習

後援会と大学の共催で9月30日(土)に看護学部とリハビリテーション学部、10月21日(土)に社会福祉学部の保護者懇談会を行いました。今年度もたくさん保護者の方々にご参加いただきました。

アンケートに寄せられた感想の一部をご紹介します。

子供が一人暮らしの為、生活や勉強等の具体的な話をする時間がとれなかった。学校の様子をとっても分かりやすく説明してくださりました。(看護学部1年次生) 昨年にも出席して重複する点もあつたが、在籍する年次の話をあらためて聞けてよかつた。(看護学部2年次生) 子供が3年次なので、「実習」「国試」「就職」についての説明は非常によく判つて良かった。(看護学部3年次生) 学年別懇談会では色々な質問が出て、保護者は皆、同じように思っているということが分り、安心した。(社会福祉学部1年次生) 子供が一人暮らしの為、生活や勉強等の具体的な話をする時間がとれなかった。学校の様子をとっても分かりやすく説明してくださりました。(看護学部1年次生) 昨年にも出席して重複する点もあつたが、在籍する年次の話をあらためて聞けてよかつた。(看護学部2年次生) 子供が3年次なので、「実習」「国試」「就職」についての説明は非常によく判つて良かった。(看護学部3年次生) 学年別懇談会では色々な質問が出て、保護者は皆、同じように思っているということが分り、安心した。(社会福祉学部1年次生) 具体的なこれからの教育内容(カリキュラム)や就職に向けての取り組みなどの説明があり、とても分かりやすく、参加して満足している。(リハビリテーション学部1年次生) あらためて時間をとってもらうのは申し訳なく思つてしまふが、こういう機会があれば聞きやすい。また、細かい事まで教えてもらい良かった。(リハビリテーション学部2年次生) 国家試験や実習はこの先間近に控えているのでとても参考になった。(リハビリテーション学部3年次生)

聖隷クリストファー大学 助産学専攻科

2007年4月開設予定

本学は、助産師養成のための助産学専攻科を2007年4月に開設する準備を進めています。助産学専攻科は、看護師の資格(看護師国家試験受験資格を含む)を有し、かつ大学教育を終えて学士の学位を取得または取得見込みの方を対象として、1年制で助産師教育を行います。本学ではこれまで26年間、看護短期大学部専攻科において助産師養成を行ってきました。2007年4月、看護短期大学の大学看護学部への完全移行を機に、助産師教育を大学の助産学専攻科において引き継ぐことになりました。このことに伴い、2004年度入学生から開始した看護学部において選択により履修する助産師課程は2006年度入学生を最後に廃止することになりました。看護師・保健師・助産師の三つの課程を4年間で履修することは、学生にとって非常に過密な学修になると同時に助産師養成の教育内容が必要最小限のものにならざるを得ないと考えたことによりです。助産学専攻科では、看護師養成教育を終え資格を得た方に、更に1年間、助産学についての講義・演習と実習を教授することにより、助産師として期待される実践能力の基礎を身につけた質の高い助産師を養成したいと考えています。昨今の産科医師不足に伴い、助産師の活躍の場が更に増加することや、育児支援や生涯を通しての女性特有のケアに関する助産師の果たす役割の重要性が増してくるなど、質の高い助産師の社会的ニーズは層高まっています。一般入試により全国から志願者を募るほか、本学看護学部からの推薦入学制度も実施します。1年間の学修の修了後、助産師として活躍する強い志のある方の入学を期待します。

読者アンケートのお願い

読者の皆様から多数の貴重なご意見をいただきありがとうございました。主なご意見・ご質問に関する回答は後援会のホームページに掲載しています。引き続き学報に関するご意見をいただければ幸いです。お便りお待ちしております。

Q1 本誌の全体の印象について○印をつけてお聞かせください。(具体的など意見もお書きください)

- 1 読みやすい 2 読みにくい

Q2 本誌に興味を持たれた記事に○印をおつけください。(いくつでも)

- 1 大学生の心とからだの健康 3 聖書のことば 5 私の教育研究
- 2 先輩からのメッセージ 4 新任教員の紹介 6 研究助成
- 7 クリストファーニュース [具体的に]
- 8 お知らせ [具体的に]

Q3 本誌へのご意見、ご要望、その他大学に関するご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。